

2017年5月11日

各位

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長 西尾啓治

平成29年3月期 決算短信発表にあたり

わが国経済は、緩やかな景気回復基調が継続していますが、海外経済の不確実性や、金融資本市場を中心とした不安定な状況に加えて、為替相場の大幅な変動に対する懸念があり、先行きは不透明な状況が続いています。

個人消費は持ち直しの動きが続いていますが、価格に見合う価値を求める消費者の動きが強まっています。食品業界においては、低価格品と高付加価値品のそれぞれに志向が多様化する中で、新たな需要が生まれる一方、需要の落ち込む商品もあり、まだら模様の状況です。

こうしたなか、当社グループは、チーズやヨーグルトなどの主力商品の販売拡大、高付加価値品の拡売によるプロダクトミックスの改善、ならびに戦略投資設備の有効活用による生産性向上等に努め、当期を最終年度とする「雪印メグミルクグループ中期経営計画」に掲げた「事業構造改革」や「戦略投資設備の最大活用」など戦略の4つの柱を着実に実行いたしました。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に閉鎖工場等の売却益を計上したことから、129億円（前期比86.3%）と減益になりましたが、連結売上高は5,879億円（前期比101.7%）、連結営業利益は187億円（前期比133.9%）と増収増益となり、最終年度の定量目標（連結営業利益130～150億円）を大きく上回り、次なる成長のための基盤固めを実現いたしました。

今後の当社を取り巻く環境を見渡すと、国内総人口の減少、少子高齢化の進展、女性の社会進出の増加、ライフスタイルの多様化等に加え、国内における酪農基盤の構造変化や生乳取引制度の変更、乳製品貿易自由化の動向等、10年単位で進む大きな構造変化の中にあると認識しています。

このような環境認識下、当社では、当社グループの10年後に目指す姿を「ミルク未来創造企業」と位置づけた、「グループ長期ビジョン2026」を策定いたしました。これは、当社グループの更なる成長・進化を実現するための新たな羅針盤となるもので、戦略のコンセプトを「Transformation & Renewal 『変革』、そして更なる『進化』へ」といたしました。そして、「『変革』の始動期」と位置づける第1ステージ（2017年度～2019年度）にあたり、長期ビジョンの基本戦略に基づく、「グループ中期経営計画2019」を新たに策定いたしました。

その初年度にあたる平成30年3月期は、「グループ収益基盤の強化」、「内外の構造変化に対応する調達・生産体制整備」、「『ものづくり』による新たな価値の創造」、「持続的な成長を支える人材の育成と働き方改革の推進」、「グループ経営の推進と総合力の強化」の5つの取組みを推進してまいります。

役職員一同、引き続き、コンプライアンスと品質管理の徹底を図り、CSR経営を積極的に推進し、「ミルク未来創造企業」の実現に向けて取り組んでまいります。

今後とも、これまでと変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上